

樟木館日和

しゅもくかんびより ◆ 創刊号



発行日: 2010年3月10日
発行: 文化のみち樟木館

「文化のみち樟木館」
開館いたしました!

「開館記念コンサート」地元出身のソプラノ歌手、佐地多美さんのトワイライトコンサートを開催しました。(7月25日)

「近代建築史への旅スケッチ展」日本全国に残る有名・無名の歴史的建造物への愛にあふれた展覧会。(8月1日～14日)

「まるはちの日」コンサート

ソプラノ歌手河合しのぶさんによる懐かしい唱歌のコンサート。(8月8日)

これらの多彩な催しを見ていくとこの「場」の可能性を感じます。ここで何か楽しいことをしたい何かを表現したいと思われるような、おおらかな「場」がここにはある、と。84歳の春を迎えるとしている樟木館。人間でいえば、いいお歳ですが、耐震・補修工事により生まれ変わった館には、これから100歳、200歳と生き長らえてほしいと心から思います。

一人でも多くの人に楽しんで、くつろいで、使っていただくことこそ、この素晴らしい屋敷を次世代、次々世代に受け渡してゆくすべになる。そう信じて、スタッフ一同、館の管理、運営に努めてまいります。どうぞ、新生「文化のみち樟木館」をよろしくお願いいたします。



「マチ歩き暮らし発見」軒下はミニシアム展 野外活動研究会がまちの中で採集・記録した軒下周辺のモノゴトを表した展示を行いました。(9月15日～23日)

「着物で遊びぼう〜名古屋帯編〜」
新鮮なデザインのアーティーク帯から現代のものまで、約70点を奥座敷にて展示。(10月2日～4日)

「泥団子ワークショップ」
歩こう!文化のみち関連イベントとして泥団子ワークショップを行いました。みんな楽しそう!(11月3日)

ヒトガカガヤク。
イエガヨロコブ。



文化のみち

樟木館

の生い立ち



大正14年頃から建設が始まったといわれている、文化の

みち樟木館(旧井元邸)。主の井元為三郎は弱冠24歳で井元商店を創業し、サンフランシスコやシンガポールなどに次々と出店。当時の地場産業である輸出用陶磁器の加工問屋として、一代で財を成した人物です。

樟木町2丁目に自宅を建てたのは50歳を過ぎたころ。大正13年に名古屋陶磁器貿易商工同業組合の組合長に就任し、名古屋陶業の中核を担う五人衆の一人として、昭和7年に完成した現・名古屋陶磁器会館の建設委員長も務めていました。

為三郎氏は
昭和20年没。幸い空

襲をまぬがれた屋敷は戦後も井元家

により守られ、大きな改修はされません

でした。洋館は戦後進駐軍が接收。そ

の後、外国人一家が借りて住んでいた時

期もあったということです。

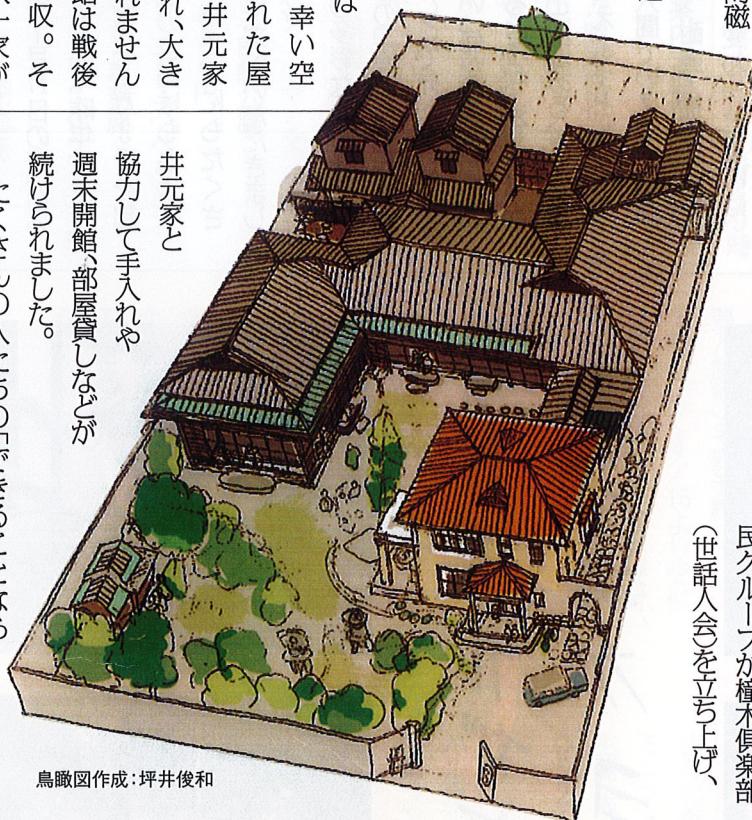
樟木町3丁目に建てられた井元商店



為三郎氏は
昭和20年没。幸い空
襲をまぬがれた屋敷は戦後も井元家
により守られ、大きな改修はされません
でした。洋館は戦後進駐軍が接收。そ
の後、外国人一家が借りて住んでいた時
期もあったということです。

たくさんの人たちの「できることなら
残ってほしい」という願いもあり、平成19年の春、名古
屋市が取得し、暫定公開、耐震工事を経て、平成21年7月
に市の施設として正式開館したのです。

鳥瞰図作成:坪井俊和



新築なったばかりの座敷にて(中央が為三郎氏)

三代目啓太氏の没後数年がたち、使わなくなっていた屋敷に新たに人が入ったのは、平成8年のことです。名古屋住環境会議に関連する5組の店主が借り受け、また開かれた場所にしようと「樟木館」と名付けます。店主たちの契約が切れた平成15年以降も、市民グループが樟木俱楽部(世話人会)を立ち上げ、

ど「樟木館」と名付けます。店主たちの契約が切れた平成15年以降も、市民グループが樟木俱楽部(世話人会)を立ち上げ、

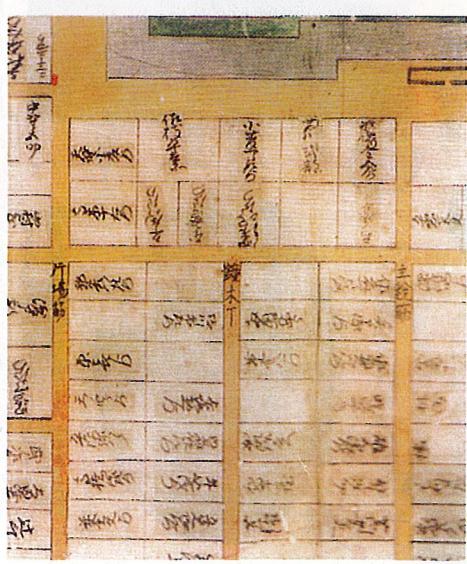
樟木町は、慶長年間(1605~20)、名古屋開府とともに、武家の居住地区として誕生しました。ある尾張藩士の著には「昔から街の形が『樟木』に似ているので、『しゆもく』と唱えている」とあります。大正5年(1916)発行の『名古屋市地理編』にも、樟木町としられてています。

樟木とは『広辞苑』による「仏具の一。鐘・鉦(たきがね)・磬(けい)などをうちなうす」。徳川時代の古図を見ると、樟木町の北側の主税筋や南側の片端筋は西側南北に延びる豊杉町を行きどまり。道が「T」の字になっていること

樟木町から 樟木町へ



樟木館という名前は、館のある町名からとられています。あまり見たことのない漢字でもあります。「どう読むのですか」というおたずねもししばしばそこで町名の由来を調べてみました。



「尾府名古屋図」名古屋市蓬左文庫蔵

横切っていますが、「樟木町」の西端は豊杉町で行きどまり。道が「T」の字になっていることから「T字町」と呼ばれるようになったのです。その後道は変わり、むりだ、樟木町を樟木町と

書き誤る人が時代とともに多くなり、それが戦後慣習化して、昭和27年制定の『住居表示に関する法律』に基づいて「樟木町」が正当化されたといふことだ。

1897年 井元為三郎が井元商店を
飯田町に創立

1903年 店舗を樟木町に
移転

1906年 樟木町に店舗。
住居・倉庫を新築
(現在の文化のみち二葉館南)

1926年 井元邸和館竣工

1927年 洋館竣工



為三郎氏ダチョウに乗る
(昭和3年 ロサンゼルス)



◆私が井元商店に入店して50年をこえる。
(昭和58年当時)(中略)井元商店の店員は、
小学校出と中学校出の差別なく全員が

「陶器貿易商井元商店」と
染め抜いたシルシ半天の
「アツシ」を着て、町中を

堂々と歩いた。

井元というと、どこへいっても
羽振りがよかつたものだ。

丸井孝二『名古屋陶業の百年』より



現在の洋館と庭

◆母が生まれたのが大正時代で、私が子供の頃
に見た食器棚とか縁側などなつかしく感じまし
た。近代的様式も良いですが、古きを守る姿勢が
日本には少ない中で、新鮮さを感じます。永代守
り続けていくことの大切さを大事にしたいと思
います。ありがとうございました。

◆大正初めまで飯田町に住んでいたころは、
近所共有の井戸というものがあつて、
毎朝そこまでいって顔を洗い、挨拶を交わしたものでした。
(中略)ところが、商売が順調で昭和6年移った
樟木町2丁目の界隈は、ハイカラな言葉でいえば、
知識的で上等な人が多かったが、人間的な親しみとなると、
それ以前の住いの方が、はるかに良かつたと思います。
井元シユン『名古屋陶業の百年』より

文化のみち樟木館で
ティータイムを。

洋館1階におしゃれな喫茶室ができました。

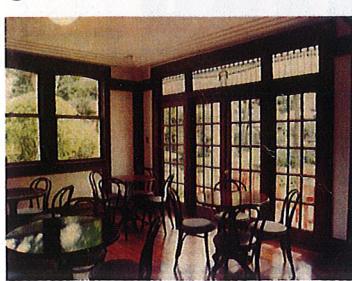


オーガニック珈琲や手作りケーキ、カレー、パスタ
などのランチもあります。四季折々に移り変わる
お庭をながめながら、ゆったりとしたひとときをお過ごしください。

珈琲・手作りケーキ
「いもとホール」

052-9332-0480

定休日・月曜



来館者ノートから

*参考文献：平成9年発行冊子『納貯ひがし』
「樟木町から樟木町へ」江崎公朗